

住民の健康保持・増進支援

かかりつけ薬局支援のツール

harmo

ソニー

交通系ICカードと同じように、カードをタッチするだけで薬の履歴等のデータを管理することができる、ソニーの電子お薬手帳サービス「harmo（ハルモ）」は、自治体・地域薬剤師会と提携し試験サービスを展開しているのに加え、一部の地域では、地域の薬剤師会や医師会、歯科医師会、行政なども連携し、地域医療向上のためのシステムとしての検討が始まっている。

「ハルモ」は、非接触型ICカード技術Felica（フェリカ）とクラウド

の技術を組み合わせたお薬手帳を中心とする情報共有システム。フェリ

カ・チップを搭載したICカードを薬局・医療機関の端末にかざすだけの簡単な操作で、患者は医師・薬剤師に自身の調剤履歴を共有することができる。

こうした薬局側の情報

ばかりでなく、利用者がスマートフォンで入力した副作用、アレルギー等に関する各種情報も薬局側で二元的に管理できる

ため、薬剤師は利用者の状況をより効率よく的確に把握できるようになり、「かかりつけ薬局」機能強化にも貢献でき

る。さらに、データをクラウド上に保管し、登録した家族間で情報共有できることから、スマートフォンを利用して子供の調剤情報を保護者が管理

できたり、離れて暮らす高齢者の状況を家族等が見守ったりと、家族によ

る服薬管理が実現することなどを通じ、健康保持・増進のためのツールとしても期待できる。

一方、利用者の個人情報とデータを分離し、データのみをクラウドのサーバーに保存することで、セキュリティレベルがより高いクラウドサー

ビスを実現していると同時に、個人情報を含まないデータを利用者の同意を得た上で蓄積し、将来的には統計データを有効に活用する仕組みにも応用できる。例えば、統計データを自治体等に提供することで、インフルエンザなどの感染症流行情報の発信を支援するなど、公共の利益に資する目的での活用が想定されている。

ハルモは川崎市で初めて導入された後、全国各地に試験サービスエリアを拡大し、今年9月末までに600を超える薬局に導入され、日々拡大を続けている。JAHIS版電子お薬手帳データフォーマットにも対応、ハルモを導入していない

薬局で受けた調剤の情報も、利用者はスマートフォンアプリを介して取得が可能となった。自治体・薬剤師会との試験サービスでは、ハルモの情報を基に住民の服薬支援を行うことで、どのように健康保持・増進が図れるのか、災害時における円滑な情報アクセスの実現可能性などを検討している。

また、札幌市では「手稲区保健情報連携システム検討会」を地域の薬剤師会や医師会、歯科医師会、行政、アカデミアなどと組織し、ハルモが薬局ばかりでなく病院や行政を含め、どのような活用が可能かあり、地域医療に貢献できるのかの検討を始めている。

